

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

玄関のメダカの水槽を観察する。

〈テーマの設定理由〉

登校園時にメダカの水槽をよく観察する姿があったため、みんなで水槽を観察する時間を設けた。

2. 活動スケジュール

玄関へ行き、順番に水槽を観察する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

メダカの水槽

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

- ・メダカの水槽を観察する。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

- ・メダカの水槽に興味を持ち観察する。
- ・「メダカ元気に泳いでるね」「このメダカお腹が大きいね、赤ちゃんいるの？」
- ・水草の裏に隠れていたエビを見つけて「エビがかくれてる」「寝てるのかな？」興味深そうに観察していた。
- ・「メダカってどうやって寝るの？」「全部で何匹いるの？」と疑問も話していた。

写真



5, 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

- ・玄関のメダカの水槽に興味を持ち、登降園時によく観察していた姿があったのでみんなで見に行く時間を設けた。少人数ずつ順番で見たことで、じっくりと観察することが出来、生き物に対しての疑問が生まれ、興味を持っていた。
- ・子どもたちの興味や関心が高まるように環境設定を整えていきたい。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・給食を通して魚を知る。

〈テーマの設定理由〉

- ・献立を見てどんな魚なのか興味を持っていたため。

2. 活動スケジュール

7月25日

- ・調理室へ行き、作っている所を見学する。
- ・魚を食べ、味を知る。
- ・アジについて図鑑で調べる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・調理室へ行き、調理している所を見学する。
- ・海の生き物図鑑

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

- ・給食の献立を見て魚のメニューが書いてあったので、調理室へ行き、作っている所を見学する。
- ・魚を食べ、味を知る。
- ・アジについて図鑑で調べる

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

- ・給食の献立を見て「アジってどんな魚なの?」「大きいのかな?小さいのかな?」と質問があったので、調理室へ行き、作っている所を見学しに行った。
- ・切り身を使っの調理だったためどんな魚なのか分からなかったの、保育室に戻ってから図鑑でアジを調べた。
- ・色や形は分かったが「どのくらいの大きさなの?」と絵本では分からないこともあった。

- ・「どのくらいの大きさなのかみてみたいなあ」との声も上がった。

写真



5, 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

- ・給食室では切り身を使っているの、実際のアジを見ることはできず図鑑で調べたが、実際の大きさが分からなかった。
- ・保育者が調べ実際の大きさを伝えたと納得した様子だった。海の生き物を実際に見たり、触れられる機会を作り、理解を深めていけたらと思う。
- ・海で泳いでいる魚が食べられるようになるまでの過程も学べられるような機会を設ける。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

生き物の生活環境を整える

〈テーマの設定理由〉

毎日メダカの様子を見て観察しているため。

生き物が好きで興味を持っている子も多くいたため。

2. 活動スケジュール

15名参加

保育園の水槽を新しくするため環境整備の手伝いをする

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

メダカの水槽、新しい砂、水草、水

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

メダカを安全な場所に移し、水を抜く

砂を入れ、好きな水草を選んで植える

水を入れてメダカが生活ができる環境を整える

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

・保育園にいるメダカのお引越しをするから手伝ってほしいと園長先生からお願いされ、砂を入れたり、水草を選んで植えたりするお手伝いをした。「綺麗な色の水草がいい」「広い場所を作ったらたくさん泳げるかな」といいながら夢中でメダカのお部屋作りをしていた。

・メダカのお引越しを手伝ってから魚について興味を持ち始め、お部屋にある図鑑をもってきて「海の中にはこんなに大きな魚もいるんだよ」「すごい毒があるんだって」と自ら調べ、知ることを楽しんでいた。

写真



5, 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

いつも観察していたメダカがどのような場所で生活しているのか知ることができていた。

環境整備の手伝いをしたことにより、更に興味がわいてよく観察するようになった。

子どもたちの興味が一気に海の生物へと変化し、絵本を手にとったり、疑問に思ったことを質問してくるようになった。保育園にあるもので子どもたちの興味関心を引き付けることが出来たためよかった。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・メダカにエサをあげる。

〈テーマの設定理由〉

- ・メダカのお引越しをして、どんなエサを食べているのか、エサをあげてみたいと声があったため。

2. 活動スケジュール

- ・9月20日
- ・エサをあげる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・メダカのエサ

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

- ・エサの量について知り、適量のエサをあげる。
- ・食べているか観察する。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

- ・エサの量を確認しながら、エサをあげた。「お腹すいてるかな?」「ご飯食べてくれるかな?」
- ・メダカがエサを食べると「食べたよ」「全部食べた」「この子は食べてないな、気付いてないのかな?」とよく観察していた。
- ・保育者がどうだったか聞くと「食べてくれてうれしかった」「またやりたい」と話していた。

写真



5, 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

・メダカにエサをあげたいと声があったので、今回の活動を行った。自分があげたエサをメダカが食べてくれると喜ぶ姿があった。今後も子どもがやってみたいと興味を持ったことは、やらせてあげる環境を作っていく。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・海の生き物の塗り絵をする。
- ・塗り絵を通して魚の生態を知る。

〈テーマの設定理由〉

- ・塗り絵が好きな児が多く、海の生き物の塗り絵がしたいとリクエストがあったため。

2. 活動スケジュール

- ・自由時間に海の生き物の塗り絵をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・色々な種類の塗り絵。
- ・クレヨン
- ・色鉛筆

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

- ・好きな塗り絵を選んで色を塗る。
- ・塗り絵を通して、魚の生態を知る。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

- ・好きな塗り絵を選んで塗り進めていく。
- ・「イルカは青で塗ろう」「このお魚って何色だっけ？」と疑問に感じたことは図鑑を見て確認する姿があった。
- ・塗り絵を通して、魚の部位について学ぶ姿があった。
- ・塗り終わると「完成したよー」と嬉しそうに教えてくれた。

写真



5, 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

・子どもたちが好きな塗り絵の遊びと海の生き物を合わせて遊びに取り入れたことにより、子どもたちの興味もより引き付けられた。今後も色々な種類の塗り絵を用意していく。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

海の生き物玩具で遊ぶ

〈テーマの設定理由〉

海の生き物について興味が出てきて、ブロックなどを釣り竿に見立てて遊んでいる園児がいたため、釣りができる玩具、様々な生き物のフィギア等を用意した。
パズルを好んで行う姿があったため海の生き物パズルも用意した

2. 活動スケジュール

自由遊びの時間に自分で選んで遊びに取り入れる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

釣りの玩具、パズル、フィギア

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

自由遊びの時間に子どもたちが遊びやすいように環境設定を行う。
保育者も一緒に遊び方を確認しながら丁寧に扱う。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

海の生き物玩具が届くと、すぐに箱を開けて楽しく遊んでいる姿が見られた。

「釣れた!」と嬉しそうに報告してくれる子や、友だちが釣れたのを見て「すごい!」と言っている姿など様々だった。釣りやパズルだけでなく、フィギアを様々な遊びに発展させている姿もあり、想像力も豊かになったと感じた。

写真



5, 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

海の生き物に興味を持ち始めてから、見立て遊びなどで楽しんでいる姿が多く見られたが、海の生き物玩具が届いてからはさらに遊びを発展させている様子があり、取り入れて良かった。新しいおもちゃを通して友達との会話が増えたり、創意工夫が出来るようになっていた。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

粘土を使って海の生き物を作る

〈テーマの設定理由〉

自分が思うように様々な形を組み合わせる海の生き物を作る
想像力や発想力を膨らませて仕上げる

2. 活動スケジュール

日々の保育内で粘土遊びを行う

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

粘土、粘土板、ヘラ等

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

・粘土で海の生き物を作る。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

・粘土を触ると「冷たい」「ぶにぶにしている気持ちいい！」といいながら粘土の感触を味わっていた。

・「何を作ろうかな」と考えながら自由に粘土遊びにとりかかっていた。

・「クラゲ作りたいんだけど、足ってなん本あるんだっけ？」と問いかけがあったので一緒に図鑑を見て確認した。「みんな違うね」とそれぞれ種類や個体によって足の数が違うことに気付いた。

・「タコ作ったよ、ここからすみが出るよ」と話していた。近くで見ると、吸盤まで細かく作っていた。

・「ウツボ作ったよ、このウツボは強いんだよ」「僕が作った犬サメとどっちが強いかな？」とそれぞれ作ったものを戦わせて遊ぶ姿もあった。

写真



5, 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

・今回初めて粘土の活動を取り入れたが、自分たちが作りたいものを自由に作り上げることが出来、楽しんで取り組んでいたのがよかった。タコの吸盤やサメの歯など細かい部分もこだわって作っていて、普段から図鑑で生き物の特徴をよく学んでいるんだなと感じた。とても集中して遊びこんでいたので、今後も粘土を使って遊ぶ活動を取り入れていく。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・しながわ水族館にいる生き物について知る。
- ・調べたいことを一つ決める。

〈テーマの設定理由〉

- ・水族館へ行く前にどんな生き物がいるのかを知ること、期待を高める。
- ・調べたいことを紙にまとめ、学びに繋げるようにするため。

2. 活動スケジュール

- ・11月5日
- ・写真を通して、水族館にいる生き物を知る。
- ・自分が調べたい生き物を決め、内容を書く。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・しながわ水族館にいる生き物の写真を用意する。
- ・画用紙
- ・クレヨン

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

- ・しながわ水族館にいる海の生き物の写真を見て、どんな生き物がいるのか学ぶ。
- ・自分が調べたい生き物を決め、画用紙に内容を書く。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

生き物の写真を見せながらこんな生き物がいるよと説明する「このお魚みたことあるよ」「サメもいるんだ」「これは何?」「イルカかわいい、イルカショー見たいな」

- ・生き物を一つ決めて調べたいことを考えよう「どれにしようかな？」
- ・「カワウソって泳げるの?」「ペンギンって暖かい所にしかないの?」「電気ウナギって本当に電気が流れるの?」「イルカってどのくらい高く飛べるの?」
- ・一人ひとり調べたいことを紙にまとめた。

写真



5, 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

- ・しながわ水族館にいる海の生き物を写真で子どもたちに見せたことで、どんな生き物がいるのか視覚的に伝わり、調べたいことのイメージが湧きやすかったのがよかった。図鑑では分からないことがたくさん挙がったので、実際に水族館へ行き、確認することで学びを深めていけたらと思う。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

水族館でカメラを使って写真を撮れるように保育園の水槽で練習をする

〈テーマの設定理由〉

水族館に行ったときに動く生き物を自分のカメラに収められるように
保育園のメダカ水槽で練習をする

2. 活動スケジュール

日々の保育の中でメダカを撮りに行く時間を作る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

カメラ、メダカ的水槽

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

1人ずつメダカ的水槽の前に立ち、撮影する

メダカが映っているか確認し、映っていなかったら再度練習する

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

家庭で写真を撮る機会がある子も多いようで、ほとんどの子が「撮れた！」と
嬉しそうに見せてくれた。普通の写真とは違い、動いている物を撮影するのは難しく、
苦戦している子もいたが終始楽しそうに行っていたため良かった。

写真



5, 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

水族館に行く前に保育園で実物に近い撮影の練習をすることができ、良かった。

大人が撮った写真を見返すよりも、自分で撮った写真の方がいいだろうと

はじめたが、写真だけが並んでいてもどれが自分で撮影したものかすぐにわかるほど記憶に残っていた。自分で行うことに意味があり、実践してよかった。

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

海の世界との出会い

〈テーマの設定理由〉

保育園の水槽環境を整えたことから始まり、海の生物に興味を持ち始めた子どもたち。様々な生物との出会いを求めクラス活動を取り入れた。

2. 活動スケジュール

15名参加

クラスの遠足活動を通して実際に目で見て生き物を感じる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

室内に海の生物についての絵本の用意、水族館にいる生き物の写真と名前を掲示

カメラを使って生き物を撮影する練習

調べたい内容を考えてひらがなで書き起こし、結果を貼り付けるシートの作成

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

水族館にいる生物を調べて興味関心を高める

実際に水族館へ足を運び、見学をする

カメラを使って自分で調べたい動物を写真に収める

調べたい内容、分かったこと、写真などを張り付けて掲示する

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

・しながわ水族館にいくと決まった時からとても楽しみにしていた子どもたち。当日までに写真を見たり図鑑を見たりしながらたくさんの事を調べて期待を高めていた。

・部屋の中にしながわ水族館にいる生き物を写真付きで掲示すると、「ペンギンを見たい」「カワウソを見たい」と友だちと話をしながら過ごしている様子が見られた。

・調べたい生き物を決めて知りたい内容を子どもたちが自分で考えた。「オオカミ魚はオオカミみたいな顔をしているの?」「ペンギンは寒いところに住んでいるの?」「クラゲの頭は本当にお花みたいな形をしているの?」「イルカはどこまで高く飛べるの?」と様々な質問が集まった。

・自分の調べたい生き物をカメラに収められるよう保育園でカメラの練習をした。保育園にある水槽のメダカで練習をしたが、泳いでいるためカメラに収めるのが難しく、苦戦している様子もあったが、うまくカメラに収まると「メダカ綺麗に撮れた!」「こっち向いてる!」と嬉しそうにする姿があった。

- ・水族館に行く1週間ほど前から気持ちの高まりは最高潮となり「あと何回寝たら水族館」と楽しみにしていた。
- ・当日は朝から大盛り上がりで大きなバスに乗り、「あとどれぐらい?」「もうつく?」などと楽しみな気持ちでいっぱいの様子だった。
- ・水族館につくと「サメどこ?」「ニモはどこ?」と行きたい場所がたくさんある子どもたちは行ったり来たりしながら様々な発見をしていた。
- ・「面白い名前!」と生き物の近くには書いている説明をじっくり読んだり、「いた!」と調べたかった生き物を見つけて駆け寄る姿もあった。
- ・保育園で練習した成果を発揮して、一生懸命カメラで写真に収める姿が見られた。「行っちゃった、」「しっぽしか写ってない」などと言いつつも何度も挑戦して「できた!」「かわいく撮れた!」と満足そうに話してくれる場面が多々あった。全員、調べたかった生き物をカメラに収めることが出来ていた。
- ・保育園で調べているときから気持ちが高まっている様子があったが、実際に水族館で本物を見るとより気持ちが高まり、更に興味がわいてきているようだった。全員が「楽しかった」「また行きたい」と言うほど思い出に残る1日となり、帰ってからも自宅で話をしたり、保育園でもしばらくは水族館や海の生き物についての話であふれていた。
- ・後日、まとめの活動として自分が撮った写真を貼って知りたかったこと、実際に見て知れたことをひらがなで書いたものを掲示した。保護者の方も子どもが撮った写真を見て「自分で撮ったの?すごい」と絶賛して下さり、子どもたちの自信へと繋がった。
- ・掲示物を見るたびに「水族館たのしかったな」と声がこぼれ、今まで海の生き物についてあまり興味関心がわいていなかった子どもも自ら図鑑を見たり、海の生き物おもちゃで遊ぶほど興味が引き付けられていた。
- ・実際に現場に足を運ぶことにより、子どもたちの世界が広がったため実施することが出来て良かった。

写真



5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

実際に足を運んで自分の目で見るにより生き物を近くで感じる事が出来ていた。

子ども達が抱いていた疑問を目で見て解決することができ、新たな考えへと発展しているすがたもあったためよかった。この活動を通して海の生き物に対しての期待が更に高まっていた。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

水族館のまとめ活動

〈テーマの設定理由〉

水族館に行って学んだことを絵にしたり、言葉に書き起こすことにより
結果を整理しやすく、次の活動に繋がりやすい。

2. 活動スケジュール

水族館で思い出に残ったシーンをクレパスで書く。

知りたかった生き物の写真を貼る。実際に見てわかった疑問の答えを平仮名で書く。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

クレパス、画用紙、鉛筆、写真、ワークシート

4. 探究活動の実績

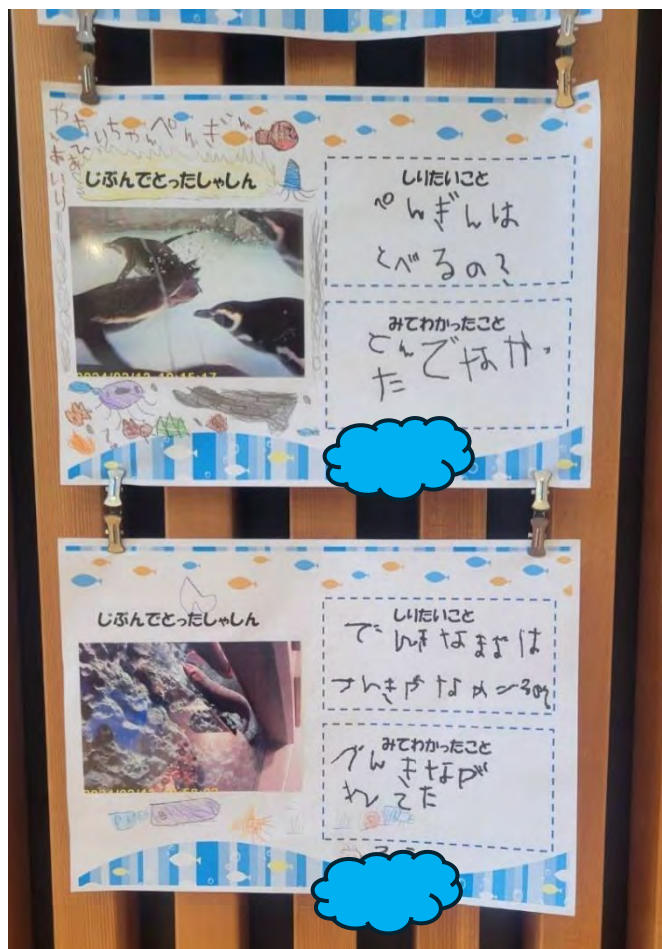
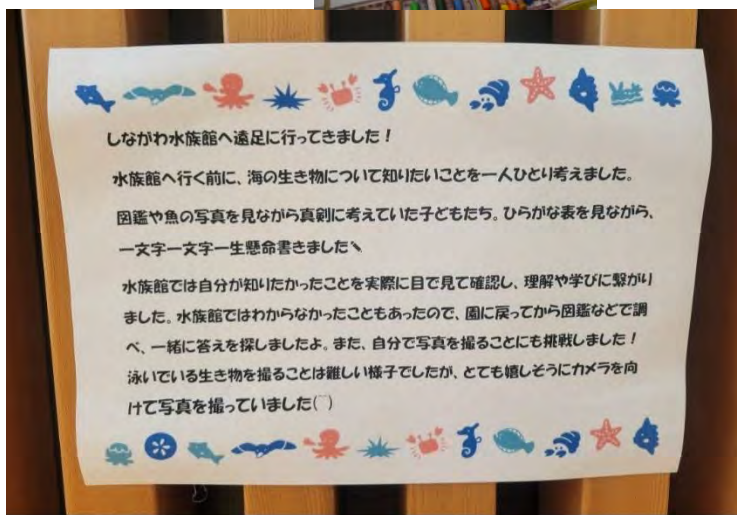
〈活動の内容〉

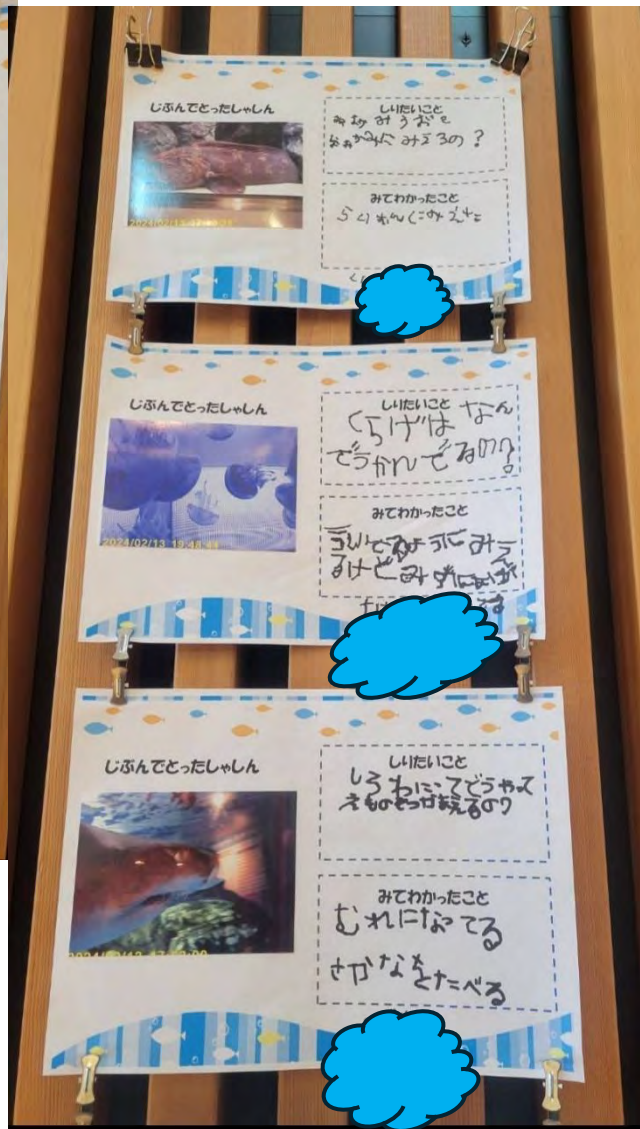
実際に行ってみてどう感じたか、子どもたちの目にどう映ったか話をしながら絵を描く。
自分で撮った写真を貼り付けてわかったことを文字に起こして掲示する。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

「イルカのショーを見たところが良かったからそこを描く」「ペンギンかかわいかったから」
と様々な話をしながら丁寧に書いている姿が見られた。
絵を描き終わると「これがオオカミウオ」「これはタコ」と描いたものを一つずつ教えてくれる姿
もあった。
疑問に思ったこと、見てわかったことなど自分たちでよくわかっていて
スラスラと文字を書いていた。

写真





5，振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

水族館に行ってから、これがよかったあれが楽しかったと話に出ることはあったが、行っていない保護者の方や他のクラスのお友達には伝わりにくいところもあり、しらべたことを掲示したことは周りの人へもいい影響があった。

その時の状況がよくわかるように鮮明に絵を描いている様子があった。また、平仮名で文字を書けるようになってきて写真と一緒に文字も入れて掲示したのはよかった。

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

海の生き物への探求心を追求する

〈テーマの設定理由〉

知りたいことを図鑑で調べたり、絵本を見て正解を見つける姿があったため
実際に目で見て探求する楽しさを知れるよう設定した

2. 活動スケジュール

15名参加

海の生物への視野をより広げ、探求心を育めるようにする。

ちりめんモンスター専門の方をお呼びする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ちりめんじゃこ、スプーン、ピンセット、虫眼鏡、画用紙、部類分けシート、
持ち帰り用の袋

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

“ちりめんモンスター”についてスライドを使って説明を聞く

ちりめんを各テーブルに配り、画用紙の上にスプーンを使って広げる

ピンセットや虫眼鏡を使ってちりめんの中に隠れているモンスターを探す

魚類、タコイカ類、カニエビ類、その他の種類別にシートに置いて観察をする

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

- ・こんな活動をするよと話をした時から「ちりめんモンスターってなんだろう？」と興味津々だった子どもたち。
- ・当日までにちりめんモンスターについて子どもたちと一緒に調べたりしながら期待を高めた。
- ・当日は朝から気持ちが高まり、登園してすぐちりめんモンスターの話で盛り上がっていた。
- ・実際に活動が始まり、スライドを見ながら真剣に話を聞きていた。
- ・スーパーに売っているものとは違うものを特別に持ってきたと聞いて、「何が違うの？」と質問し、スーパーではみんなが食べやすいようにエビやカニなどの口の中に刺さってしまうような生き物は取り除いてあると答えをもらい、「じゃあこれは食べられないね」とよく理解している様子だった。

・魚、エビやカニ、タコやイカ、その他の4つに分けられた用紙をもらい、ちりめんが目の前に届くと気持ちはとても高まり、「もうやってもいい?」「どれぐらい入れるの?」と説明を聞く前から始めようとする子どもたち。

・小さな虫眼鏡やピンセットを使って部類分けする説明を聞き、モンスター探しが始まると「魚いた!」

「赤ちゃんのカニがいた!」と見つけた生き物を嬉しそうに部類分けしていた。

・タコやイカは珍しいよと言われると必死に探し、「タコいた!」「イカいた!」と嬉しそうに見せてくれた。

・中にはタツノオトシゴを見つけた子もいてとってもレアだよと言われ喜ぶ姿もあった。

・初めは見つけると大きな声で報告してくれた子どもたちだったが、次第に自分の世界に入り込んで集中して部類分けを楽しんでいた。

・指では探し出すことが出来ないほど細かく、終始ピンセットを使いながらの指先を使う活動だったが、長い時間集中している姿が見られて驚いた。

・「こんなにみつけれられたよ!」「全部数えてみる!」と友達同士で見せ合いながら最後まで楽しんでいた。

・友達のシートを見て「こんなのもいたんだ!」と新たな発見をしている子どももいて学びを深める姿もあり、とてもいい経験に繋がった。

・見つけたモンスターを持って帰っていいよと言われるととても喜び、一生懸命小さな袋に詰めていた。「ママとパパに見せる」「お家に飾る」と子どもたちの笑顔がたくさん見られた。

・楽しかった人?と聞かれ、全員が勢いよく手を挙げて「たくさん見つけられた!」「楽しかった!」「珍しいの見つけられた!」「また来てほしい!」と話していた。

写真



5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

小さな魚の表情や手足まで細かく観察し、見つけたことをとても喜ぶ姿を見て行ってよかったと感じた。自分で見つけたことへの達成感や満足感など感じている様子があった。

水族館で見て感じた事とは別に生き物の生態を知れるととてもいい機会となった。

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・様々な素材の中から自由に選び、自分だけのボトリウム作りを行う。

〈テーマの設定理由〉

- ・海の生き物について探究活動を行っていく中で、生き物を飼う

2. 活動スケジュール

- ・15人参加
- ・みくさみくさんにお越しいただき、ボトリウム作りを行った。
- ・ボトリウムとは何か説明を聞いたり、約束事を学ぶ。
- ・石や砂を自由に並べ、ボトリウムを作る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・少人数で進められるように机をいくつか用意した。
- ・瓶・石・砂・スプーン・スポンジ・水・バケツ・トレイ・ライト・水草・タオル
- ・自由に製作できるように、様々な素材を用意した。

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

- ・以前しながわ水族館へ行った際にボトリウムコーナーを見に行っていたので、ボトリウム作りに期待を膨らませていた。
- ・ボトリウムとは何か話を聞いたり、約束事やお世話の仕方などを学んだ。
- ・説明を聞きながら、石や砂を並べ、ボトリウム作りを行う。
- ・完成したらライトを照らし、自分が作ったものだけではなく、他児の作品を観察した。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

- ・ボトリウムの説明や約束事をしっかりと聞いていた。ボトリウムには一匹の魚しか飼えないことを聞くと「なんで?」「二匹はダメなの?」「しながわ水族館の水槽にはたくさんのお魚が一緒にいるのに、ボトリウムはなんで一匹だけなの?」と質問があった。

- ・好きな石を選んで並べる作業では「どうやってならべようかな」「富士山の石どうやってもってきたの？」と話していた。
- ・石の並べ方は三通りあり、悩んでいる児もいれば、悩まずにすぐに決め作業に取り掛かる児もいた。
- ・好きな色の石を思い思いに敷き詰めていた。「キラキラしてる」「たくさんいれよう」「何色にしようかな」と考えながら行っていた。
- ・水を入れ水草を植えると、「もうすぐ完成だね」「水草いれるの難しいね」
- ・完成しライトで光らせると「わぁー！」「きれい」と声が上がっていた。「はやくお魚入れたいな」「おさかな喜んでくれるかな」「砂がきらきらしてるね」「上手にできた」と話していた。

写真



5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

- ・しながわ水族館へ行った際にボトリウム作りコーナーを見学していたので、いつ作るのか心待ちにしていた児が多く、当日も張り切って取り組む姿があった。
- ・石の並べ方や、様々な砂があり、たくさんの選択肢の中から自由に作ることを楽しんでいた。
- ・二時間近く作業をしていたが、どの過程もとても集中して取り組み、完成すると達成感を得られている様子だった。
- ・「はやくお魚入れたい」などの声が多かったので、魚が住める環境を整えていく。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・水草の観察をする。

〈テーマの設定理由〉

- ・ボトリウム作りをした際に日経つと水草が変化すると聞いたため、観察を行った。

2. 活動スケジュール

- ・2月20日
- ・ボトリウムの水草を三日間観察し、カメラで撮影する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・カメラ

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

- ・ボトリウムの水草を観察し、変化を確認する。
- ・三日間観察し、カメラで撮影し、まとめる。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

- ・自分のボトリウムを観察した。「あんまり変わってない」と話しながらじっくりと観察する姿があった。
- ・「フワフワしてて泳いでるみたい」「昨日よりも大きくなった気がする」「水草にお魚が隠れてるね」「明日になったらもっと大きくなるかな？」

写真



5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

・水草を観察し、前日と比べて変わった箇所がないかじっくりと観察する姿があった。少し大きくなっている等、細かな変化に気付いていた児もいた。全員の記録をホールに掲示したことで、自分の記録だけではなく、他児の記録も見えて学びにつながったのではないかと感じる。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・赤ガレイを実際に見て、触れて魚を体感する。
- ・調理している過程を知ること、命の大切さを知る。

〈テーマの設定理由〉

・水族館などで魚を見ることはあっても、実際に触れる経験はあまりできないので、今回の活動を通して魚に触れる経験を通し、魚についての興味や理解をより深める。

2. 活動スケジュール

- ・14参加。
- ・赤ガレイの特徴や住んでいる環境について学ぶ。
- ・近くで観察したり、触れ感触を味わう。
- ・目の前でさばいている所を見学し、調理の過程を知る。
- ・調理した魚を食べ、命の大切さや、おいしく食べることへの感謝を学ぶ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・魚に興味を持てるように、魚の絵本や図鑑を用意した。
- ・前日に赤ガレイについて話をし、当日の活動に期待を持てるようにした。

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

赤ガレイの特徴や住んでいる環境について学ぶ。

- ・近くで観察したり、触れ感触を味わう。
- ・目の前でさばいている所を見学し、調理の過程を知る。

- ・調理した魚を食べ、命の大切さや、おいしく食べることへの感謝を学ぶ。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

・実際に赤ガレイをみると「初めて見た」「目があるね」「しながわ水族館にはいなかったよね」と話していた。

・赤ガレイを触って感触を確かめました。嫌がったり怖がる児はいなく、みんな積極的に手を伸ばして触っていた。「ぷにぷにしてる」「ここは固いね」「ここはつるつるしてるけど、こっちは少しザラザラしてる」「冷たい」と感想を話していた。カレイを裏返してもらうと、「骨が見える」「色が違うのはなんで？」

・さばいている時は集中して見ていた。「中は白みたいないろなんだね」「おいしそう」「骨もあるね」「手切らないでね」と気遣う姿もあった。

・焼いているときは「いいにおいがする」「早く食べたいな」「色が変わった」など話していた。

食べてみると「ふわふわしていておいしい」「柔らかくておいしい」「もっと食べたい」

皮も焼いてもらい食べてみると「初めて食べたけどおいしい」「給食でも食べたい」「皮って食べられるんだね」「皮もっとおかわりしたい」と話していた。

・その後集まってどうだったのか聞くと「おいしかった」と味の感想を伝えたり、「魚をさわっておもしろかった」「またやりたい」など感想を話していた。

写真



5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

・水族館や図鑑で魚を見たことはあっても、実際に触ったことがある児は少なかったので今回の経験は良い体験となりよかった。

・調理している一連の過程を実際に見たことで、食材に対して感謝の気持ちを感じることが出来ていた。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

ちりめんモンスター更なる探求

〈テーマの設定理由〉

ちりめんモンスターの行事が終わった後も楽しかったとの声が収まらず、
お部屋にちりめんモンスターの絵本、図鑑を取り入れた

2. 活動スケジュール

絵本の中からちりめんモンスターを探す

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵本、図鑑

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

絵本コーナーに絵本、図鑑を設置しいつでも読める環境を作る
子どもたちが絵本や図鑑を使って探究活動を行う

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

真剣な表情をしながら「いた！」「ここにも！」と友達と協力しながら探し
楽しんでいる姿が見られた。絵本の周りに居合わせた友達同士で仲良く
モンスターを探す様子があり、「先生も一緒にやろう！」と職員も
一緒に真剣に探したりと今までにはなかった雰囲気を楽しむことが出来ていた。

写真



5，振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

自由遊びの時間になるとブロックやパズルなどで遊ぶ子が多かったが、ちりめんモンスターの絵本が来てからは誰が最初に手に取るかなどの話になるほど人気の絵本となり、文字を読むことにも積極的になった様子だった。1人で読むのではなく、周りの友だちと協力して一緒に楽しむ姿もあったため良かった。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・海の生き物に触れて、感触の違いや特徴について知る。

〈テーマの設定理由〉

- ・今までは図鑑で見るが多かったが、おさかな先生の活動を通して、魚に触ってみたことで「もっと触ってみたい」などと、声があったため、実際に触れられる機会を設けた。

2. 活動スケジュール

- ・タッチプールやドジョウ、メダカすくいの約束事について話を聞く。
- ・水槽、タッチプール、ドジョウ、メダカすくいの各コーナーを自由に体験する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・前日に移動水族館について話をし、期待を持てるようにした。
- ・タッチプール・水槽・ドジョウ・メダカすくい・手拭き

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

- ・ヒトでやタコ、カニなどの海の生き物に触れ、感触を確かめたり観察したりする。
- ・生き物について気になることや疑問があれば、教えてもらう。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

- ・生き物触れ合いコーナーでは、様々な種類のヒトデがいることに気が付き「形も模様も違うね」「このヒトデはふさふさしてるね」「大きさも違うね」など話し、よく観察していた。
- ・触ってみると感触の違いにも気が付いていた。ヒトデが起き上がる様子に興味津々だった。

- ・タコを触ってみると、小さいタコにも吸盤があり、「手にくっついた」「色が変わった」「なんで色が変わったの？」と話していた。
- ・怖がったりする子はほとんどいなく、積極的に触って楽しんでいた。
- ・水槽コーナーでは「これは何？」と質問をしたり、知っている生き物がいると「カクレクマノミだ」と名前を話していた。
- ・スタッフの方にフグやカニの特徴を教えてもらおうと、興味を持って聞く姿があり、「何を食べるの?」「どこの海からきたの?」と気になることを質問する姿も見られた。
- ・ドジョウ、メダカすくいでは、普段なかなかできない体験にとっても興味をもっていた。

写真



5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

- ・実際に生き物に触れることで、感触や模様の違いに気付いたり、新たに疑問が生まれ探究心が育まれていた。
- ・疑問に思ったことはスタッフの方に聞き、色々と答えて答えてもらったことで、海の生き物についての理解がより深まっていた。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

図鑑を使って海の生き物を調べる

〈テーマの設定理由〉

給食に出てきた魚の種類を調べている様子があったため

2. 活動スケジュール

保育園にいる魚や、給食のメニューで出てくる魚の種類を図鑑で調べて
興味関心を引き出す

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵本コーナーに海の生き物図鑑を置く

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

給食のメニューや知っている魚の名前について話をして子どもたちの
感性を広げる。

実際にみんなで図鑑を見て魚の名前や特徴などを知る。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

「アジって何色?」「メダカって食べられるの?」と知ることが増えるにつれて様々な疑問がでてきた子どもたち。給食室の先生に聞いたり、自ら図鑑をもってきて「これ給食で食べたやつだ」と知ったことを理解している様子だった。

写真



5，振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

図鑑で調べている中で載っていない魚もいて、もっと知りたいという気持ちが大きくなってきている様子がある。保育園の中でメダカの観察ができたり、食べられる魚と食べられない魚についてしれたりといい環境がそろっているため、引き続き子どもたちの気持ちを高めながら次の活動に繋げていきたい。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ
〈テーマ〉

アカヒレを育てるための飼育環境を作る。
自分のアカヒレやヒメタニシを選んでマイボトリウムにお迎えする。

〈テーマの設定理由〉

魚の飼育を行う中で、「命を大切にすること」を学ぶ。
元気に長く生きてもらうために必要なことを調べ、自分たちでお世話できるようにしていく。

2. 活動スケジュール

3月6日

マイボトリウムにアカヒレをお迎えする。

3月11日

ヒメタニシをお迎えする。

飼育環境を整える。
飼育方法を覚え、自分でお世話ができるように慣れていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

マイボトリウム・ひめたにし・網・タオル・バケツ・アカヒレ
スプーン

4. 探究活動の実績
〈活動の内容〉

・アカヒレをお迎えするために前月から水の替え方やえさの量などを調べて練習をしてきた。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

- ・入れ替える際、大人が思うよりもこどもたちは「簡単だった」と話していた。
- ・ヒメタニシはお迎えしてからしばらくの間動かなかったのが「はずかしいのかな？」といったり「まだかな？」「でておいで～」と声をかける様子が見られた。
- ・ヒメタニシはしばらくすると動き出してボトルの壁をつたっていたのでそれを見て「くっついてる！」と大喜びであった。
- ・アカヒレはお迎えしてからもとても動きが活発で「泳ぐのがはやい！」と話していた。
- ・保護者の方にも自分のお迎えした魚やタニシを紹介する姿が見られた。
- ・こどもたちがお世話をする中で「どうしてエサはあんなにちょっとだけなの？」「おなかすかないのかな」「なんでお水きれいなのに変えなきゃいけないの？」などの疑問も出てきていた。

写真



〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

・最初は餌やりや水替えの日を決めていても忘れてしまったりしていたが、カレンダーに表示することでお世話やりに対しての意識が深まり、「今日は水替えだよ」など子どもたちから積極的な発言が見られるようになった。

自分たちが選んでお迎えした生き物に対し、日に日に愛着がわいている様子。

「なぜ水をかえるのか?」「なぜこんなに餌が少ないのか?」などをこどもたちと一緒に調べたり考えたりすることでさらに知識が広がり興味関心が広がっている様子が見られた。

生き物を育てるということは命に直接かかわる機会であり、命を大切にするために丁寧なお世話が必要だという事を体感できた良い機会となった。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 みらいく中村橋園
施設所在地 練馬区
4歳児クラス

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

生き物や水草の細かい部分を観察してみる。

〈テーマの設定理由〉

実際にこどもたちが生き物を見たり、触れたりしたことでさらに生き物や水草についての関心が深まった。目では見れない部分に関して、マイクロスコープを使って調べてみようとなった。

2. 活動スケジュール

マイクロスコープを使い観察を行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

マイクロスコープ・マイボトル・図鑑

4. 探究活動の実績

〈活動の内容〉

実際に自分がお世話をしているマイ水槽の水草やアカヒレをみてみたり、水質についても汚れなどが見えるかどうか試してみる。水草から出る酸素についても観察ができればと思い設定した。

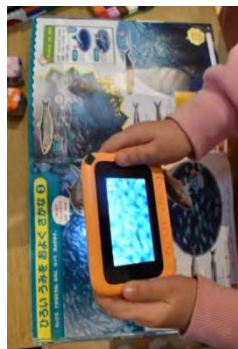
➡ ピントがうまくあったり合わなかったりだったので、図鑑でも試してみた。
画像がうまく観察できるものもあった。水草から出る酸素は泡が良く見えていた。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り〉

マイクロスコープを見せると「これ何？どうやって使うの？」と興味津々だった。
ピントを合わせることが難しかったが、どうやったらよいか試行錯誤しながら取り組んでいた。
ポトリウムの観察をすると、「お魚すぐ泳いでどこかに行っちゃう」と言いながら魚の動きを追い観察していた。

「水草のまわりはぽつぽつ丸があるよ」と水草から出る酸素を観察した。
図鑑をマイクロスコープで見ると模様がはっきりと見えた。「このお魚こんな色なんだ」「大きく見るとこんな感じなんだ」と話していた。

写真



5，振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

普段目では見えない部分もマイクロスコープを使って観察したことで、新たな発見や気づきに繋がっていたのでよかった。図鑑ではピントが合いやすかったため、次々とページをめくって観察を楽しんでいた。海の生き物だけではなく、動物図鑑や植物図鑑の観察を楽しむ姿もあり興味が広がったと感じる。